

(案)

印西地区ごみ処理基本計画

に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

印西地区環境整備事業組合

募集期間	平成30年11月15日（木）～平成30年12月2日（日）
意見書	4 件

意見と意見への対応

NO	該当ページ	意見	意見への対応
1	54	<p>（中間処理施設、最終処分場） 埋立率20.6%となっていますが、いずれ100%となります。 焼却灰を製品化にする事で、環境に負荷をかける事もなくリサイクルし、経費の削減にもつながり土地の有効利用が可能と考えられます。可能でしたら、今後の時代に見合った設備をと考慮すべきかと考えます。</p>	<p>当組合では、関係市町と共にごみの発生抑制に取組み、印西クリーンセンターにおける処理量の減のほか、最終処分場における焼却灰等の埋立量の減にも寄与するところです。 ご意見のありました、焼却灰の資源化に関して、近年焼却灰の資源化に有効な「灰溶融方式」に関しては、維持管理コスト等の問題から、採用する自治体は減少傾向となっています。 このような状況を踏まえ、次期中間処理施設整備事業施設整備基本計画において、安全・安定性、エネルギー生産性、地球環境への配慮、経済性の比較・検討を行い、最終処分場の状況と、実績による処理技術の信頼性を総合的に判断した結果、現施設で採用している「ストロカ式」を選定し焼却灰は最終処分することとしております。 なお、今後も最終処分場については、安定的・効率的な運営等を行っていくこととしております。</p>
2	73	<p>（生ごみの減量化） 生ごみは水分が80%を占めており、徹底的な水切りによって6～10%を減量できると示されていますが、具体的な水切り方法を何か示した方が良いでしょう。例えば、新聞紙などで小分けにして包み、水分を減らす等はどうですか。</p>	<p>ご意見のありました、生ごみの減量化に関して、P85の「ごみ減量化・資源化の取組」のP86「生ごみの水切りを徹底しよう」に位置付けており、今後、具体的な方策を実施していく中で有効な生ごみの減量化の取組として検討していくこととしております。</p>

NO	該当ページ	意見	意見への対応
3	74	<p>(家庭における食品ロスに関する取組)</p> <p>SDGsの「食品ロス削減」のターゲットでは、2030年までに一人当たりの食料の廃棄を半減することを提唱しています。</p> <p>ところが、本計画では、食品ロスの削減は、推定する食品ロス(厨芥類の8~18%)中、わずか2%(削減率は最大で25%)こんな消極的でいいのでしょうか？</p>	<p>食品ロスの削減は、「ごみ処理基本計画」においても非常に重要な取組と認識しています。</p> <p>ご意見のありました、削減の目標値に関して、計画書のP60以降の「過去の実績を基にした排出量の予測」で、これからの減量化を見込んで予測しており、目標値に関しては、予測値に更なる食品ロスの削減という形で上乘せしていることや、今後の減量施策の取組等により総ごみ量が減少することが考えられるため、それらの減少見込みを含めてSDGsの「食品ロス削減」のターゲットに近い形での目標値となっています。</p> <p>なお、食品ロスの実態を把握し、より実効的に削減できるように推進していくこととしております。</p>
4		<p>現在、人間の排泄物に(有害物が含まれているかもしれない)マイクロプラスチックが検出されるなど世界規模のプラスチックの海洋汚染が大きな社会問題になっております。近いうちに国際的な規制がかかるものと思われそうですが、本計画ではその対策が「バック持参」という従来通りの対策しか打ち出されていません。</p> <p>規制待ちをせず、すぐやるべきことがたくさんあります。その一つが、「ごみのポイ捨て防止」、「ごみの不法投棄取り締まり強化」などです。これらは構成市町の仕事なので触れないのでしょうか？それなら「マイバック持参」をなぜ挙げたのでしょうか？</p>	<p>ご意見のありましたマイクロプラスチックの問題に関して、基本計画のP1「計画の目的」に記載しており、世界的に問題となっていることは認識しております。このことについて、基本計画の施策の「◎資源化の仕組みづくりについて考えよう」の中に、今後の検討課題として文言を追加し、プラスチックごみの分別やりサイクルなど資源化の取組みを行っていきたいと思います。</p> <p>また、「ごみのポイ捨て防止」「ごみの不法投棄取締強化」については、関連施策として啓発の強化等を市町の取組として行っていくこととしております。</p>